

令和6年度 西区障害者自立支援協議会 事業報告

年間テーマ/主な取り組み

西区テーマ【住み続けたい西区になるために】○地域課題「複合的な課題を抱える家族の支援」

◎西区の特徴・テーマ設定の背景・取り組みについて

令和5年度は「複合的な課題を抱える家族の支援」をテーマにし、そのような家族に気づき、介入するきっかけを作り、支援の輪を築くために、分野を超えて共に学ぶ場、出会う場を意識した活動を行いました。そこから、既存のサービスでは馴染みにくい子どもの居場所の拡大や、保護者に障害のある子どもの特にライフステージを超える支援などに課題が見えました。

令和6年度は「複合的な課題を抱える家族の支援」をテーマに置きつつ、改めてライフステージを超える支援の連携などを中心に令和5年度で学んだことを深め、地域で顔の見える繋がりを作っていきたいと考えています。

日時・場所	協議会活動内容（毎月第4木曜日 13:30～15:30）	備考
4月25日 健康福祉プラザ	<本会議> ○委員紹介○今年度の計画と体制について	
5月23日 西区役所	<運営会議> ○次回開催に向けて	
6月27日 西区役所	<本会議> ○研修「児から者へライフステージが変わる際の支援 ～進路指導を踏まえて～」(堺・泉北支援学校)	
7月25日/30日 西区役所	<運営会議> ○次回開催に向けて <研修> ヘルパー交流会・にしにしネットワーク・指定相談事業所交流会共催 研修 「難しくない！おさえておこう！権利擁護」	
8月22日 ウェスティ/Zoom	<本会議> ○医療的ケアのある方の課題について	
9月26日 西区役所	<運営会議> ○次回開催に向けて	
10月24日 ウェスティ	<本会議> ○民生委員児童委員会障害者福祉委員会共催研修 「ヤングケアラーの事例を通して地域での連携を考える」	
11月28日 西区役所	<運営会議> ○地域課題整理に向けて○高齢者関係機関交流会に向けて	
12月11・26日 西区役所	<研修> ○高齢者関係機関交流会 <本会議> ○今年度まとめ、地域課題抽出	
1月23日 西区役所	<運営会議> ○今年度まとめ、地域課題整理	
2月27日 西区役所	<本会議> ○市協議会の報告○社会資源集について	
3月27日 西区役所	<運営会議> ○令和7年度計画案について	

◎ 区の取組

- ・ライフステージを超える支援として、支援学校卒業後の進路選択をしていく際に複合的な課題を抱える家族の場合は特に、本人、保護者、学校のみではなく支援者(計画相談、放課後デイなど)も一緒に取り組むことが多く見受けられ、改めて支援学校の進路指導に関する取り組みを共有した。保護者が理解、見通しが立てにくい場合でも、学校での動きが分かり必要な情報共有や同行できるようになり、より本人に寄り添った進路選択が児から者のスムーズな引継ぎに繋がれると感じた。
- ・医療的ケアのある方の課題を共有した。医療的ケア通学支援事業に関しては、事業所が増えず利用できても始業時間間に合わないなどの課題がある。保護者が送迎するケースが未だ多く、車両購入から金銭的な負担は大きい。入浴に関しては、放課後デイに加算がつき希望者が増えデイでの入浴はパンク状態である。日中活動事業所では医療的ケア対応できる看護師常駐の事業所はまだ少ない。小児で気管切開認められた世代が18歳になるこれから深刻になると考えられる。
- ・民生委員児童委員会障害者福祉委員会共催研修にて今年のテーマを深めるため民生委員から繋がった「ヤングケアラー」の事例を共有し、地域別でのグループワークを行った。活動的な民生委員さんほど相談先に困っており、地域での障害分野支援者との繋がり作りを今後も継続して行いたい。
- ・ネットワーク共催で権利擁護に関する研修を行った。それぞれの視点からケースを見て、不適切な支援にならないためにどうすべきかをグループで考えられた。ヘルパー交流会としては、今後継続が難しくなり、共催研修の形で継続して学びの場を作っていく。
- ・課題抽出では、「複合的な課題を抱える家族」より新たに障害のある方の妊娠・出産・子育てにまつわる課題、詐欺被害に関する課題が出た。

◎ 市協議会への提案等

- ・医療ケア児の放課後デイ以外の入浴の充実が必要と考える。(例えば、訪問入浴の年齢引き下げと要件の緩和について検討してほしい。)
- ・ヘルパー不足が深刻である。特に重度訪問介護(特に医療的なケアがある方)、移動支援が受け取れない。区域の取り組みとしては、ネットワーク共催で事業所を支える研修企画を継続する方針だが、移動支援の報酬などには見直しや医療的ケアの受講費用の補填などが必要だと考える。
- ・ヤングケアラーをはじめ、障害のある方の子どもや兄弟児のための居場所として、区こども家庭センター/子どもの未来応援室の居場所や地域資源と、障害分野との連携を検討したい。
- ・障害のある方への分かりやすい性教育、子育て支援が必要。(例えば、まず支援者が性教育ができるための勉強会、また保健師さんに協力してもらって育児にまつわる相談会や次の妊娠を考える際のポイントなどを話し合う小規模な集まりで行うなどを試行したい。)